

大西洋クロマグロ 西大西洋

Atlantic Bluefin Tuna, *Thunnus thynnus*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

最近の動き

ICCAT での最新の資源評価は 2014 年 9 月に行われた。ICCAT の科学委員会 (SCRS) は大西洋クロマグロに関して 2015 年に 3 つの会議を開催し、次回以降の資源評価に向けて、生物学的データ及び資源評価手法を検討した。SCRS の管理勧告を踏まえ 2015 年 11 月の委員会は、2016 年の総漁獲可能量 (TAC) を設定した。次回の資源評価は 2017 年に実施する予定である。

生物学的特性

- 体長・体重：尾叉長 4.0 m・700 kg
- 寿命：32 歳
- 成熟開始年齢：9 歳
- 産卵期・産卵場：5～6 月、メキシコ湾
- 索餌場：北緯 35 度以北の大西洋
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

利用・用途

刺身・すしなど

漁業の特徴

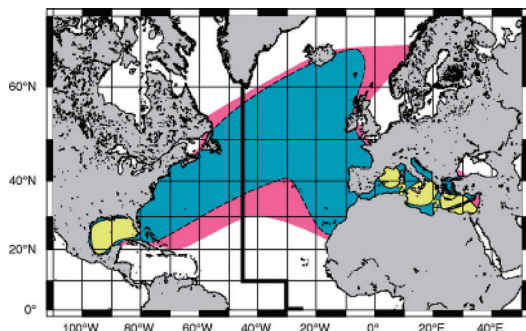
主な漁業国は、米国、カナダ及び日本である。日本の漁獲は全てはえ縄、米国及びカナダではロッド&リールと呼ばれる釣り漁業が主体である。漁期は日本が 11～3 月、米国が主に 7～11 月、カナダは 8～11 月である。

漁獲の動向

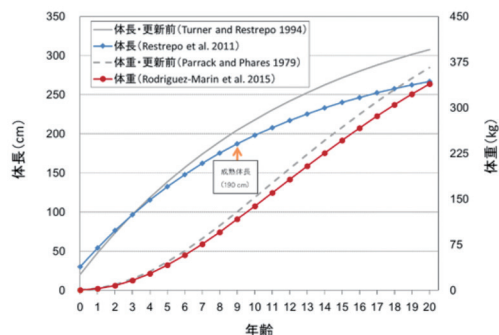
漁獲量は 1981 年までは 5,000 トン前後で推移したが、漁獲規制により 1983 年以降 2,500 トン前後となり、2002～2007 年にかけて 3,319 トンから 1,638 トンに減少した。その後約 2,000 トンで推移し、さらに 2011～2014 年の TAC は 1,750 トン（日本は 301.64 トン）に削減され、2014 年の漁獲量は 1,626 トンであった。ICCAT へ 2014 年に報告された漁獲量は 1,630 トンであった。2003 年以降の漁獲量の減少は、米国での不漁が主な原因である。

資源状態

SCRS は本資源の資源評価に ADAPT VPA を適用している。親魚資源量は 1970 年代に約 5 万トンから 2 万トンに大幅に減少した後、1980 年代から 2000 年頃までの期間に 1970 年代初頭の 25～36% 水準（1.5 万トン前後）で比較的安定していたと推定された。2000 年半ば以降、親魚資源量に急激な増加傾向が見られ、2013 年の親魚資源量は約 3 万トン（1970 年の 59%）と推定された。2010 年の資源評価では高水準と評価されていた 2003 年級の加入量は、最新の資源評価においても前回（2012 年）と同じく、2010 年の資源評価よりも低く見積もられ、当該年級が 2002・2003 年級の両方で構成される結果となった。しかし、これは漁獲物の年齢組成を推定する際に隣合う年級群の判別が高齢になるにしたがって不鮮明になる技術的な問題によるものであり、現実には 2003 年級の加入水準は高かった（約 19 万尾）と認識された。加入量（1 歳魚）は 1976 年以降、2003 年を除き、低いレベルで推移している。2015 年の SCRS では、最近年の資源量指数に関する情報に基づき、2014 年の資源評価と判断が変わらないことを確認した。



大西洋クロマグロの分布域（赤）と主要漁場（青）、産卵場（黄）
索餌場は産卵場を除く分布域。縦太線は東西の系群の境界。



大西洋クロマグロ（西系群）の年齢あたりの体長と体重
青は 2010 年の資源評価で更新された成長曲線、灰色の実線は更新前を示す。図中の矢印は成熟体長を示す。
赤は 2015 年に更新された体重曲線、灰色点線は更新前を示す。

管理方策

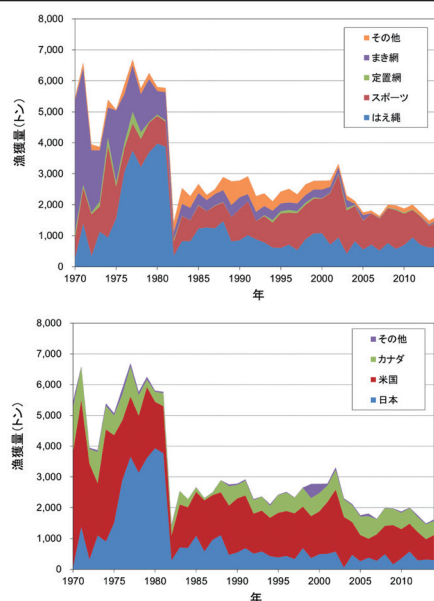
ICCAT は 1998 年に、2018 年までに 50% 以上の確率で資源を最適な状態 (SSB_{MSY}) に回復させるという管理目標を定めた。現在の管理の指標 (MSY) に用いている 2 つの極端な再生産関係の仮定 (高加入、低加入シナリオ) の解決が期待されているが、SCRS は解析並びに議論の結果、加入シナリオの高低についてはどちらかを選択できないと結論付けた。SCRS は 2014 年の資源評価において、漁獲量を 2,250 トン以下にすると、2019 年までに現状またはそれ以上の資源量が得られるとした。また、現在の漁獲量 (1,750 トン) を維持することはより早い資源量の増加につながり、加入シナリオの検証にも役立つとした。2015 年の年次会合では、2014 年の決定 (Rec. 14-05) を継続し、2016 年の TAC を 2,000 トン (日本は 346 トン) とした。また他の規制として、体長 115 cm (または体重 30 kg) 未満の個体の漁獲量制限 (国別に漁獲量の 10% 未満とすること並びに小型魚から経済的利益を得ない方法を開始すること)、産卵場 (メキシコ湾) における産卵親魚を対象とした操業の禁止及び漁獲証明制度が実施されている。

資源評価のまとめ

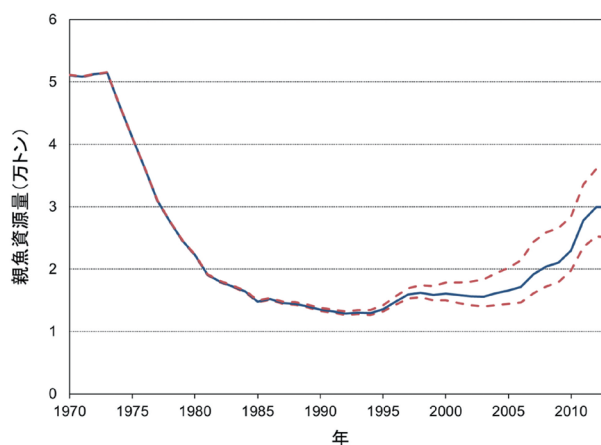
- ADAPT VPA で資源量を推定
- 2000 年半ば以降、親魚資源量は急激な増加傾向に転じ、2013 年は約 3 万トン。
- 資源水準は中位、増加傾向
- 2003 年級の加入量 (1 歳魚) は約 19 万尾で水準は高かったと認識
- 本種の西系群と東系群は混合しており、東系群の資源量が西系群よりはるかに大きい

管理方策のまとめ

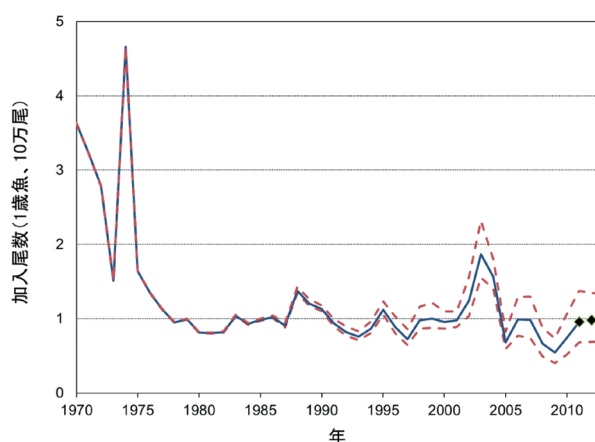
- 2018 年までに 50% 以上の確率で資源を最適な状態 (SSB_{MSY}) に回復させる
- 2015 年及び 2016 年の TAC は 2,000 トン
- 小型魚漁獲制限
- 漁期・漁場の制限
- SCRS が資源崩壊の危機 (資源の回復が困難な状況) を認めた場合、漁業を停止



大西洋クロマグロ (西系群) の年別漁法別漁獲量 (上) と年別国別漁獲量 (下)。漁獲量には投棄分も含まれる



大西洋クロマグロ (西系群) の親魚資源量の経年変化
資源評価モデルでの推定親魚資源量。上下の点線間は 80% 信頼範囲。



大西洋クロマグロ (西系群) の加入尾数 (1 歳魚) の経年変化
資源評価モデルでの推定加入尾数。上下の点線間は 80% 信頼範囲。
最近年 (2011 ~ 2013 年) の加入尾数の推定値は、推定精度が低いためマークを変えた。

大西洋クロマグロ (西大西洋) の資源の現況 (要約表)

資源水準	中 位
資源動向	増 加
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	1,486 ~ 2,007 トン 平均: 1,750 トン (2010 ~ 2014 年) (投棄を含む)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	289 ~ 578 トン 平均: 368 トン (2010 ~ 2014 年)
最新の資源評価年	2014 年
次回の資源評価年	2017 年